

憲法しんぶん 速報版

発行 憲法改悪阻止各界連絡会議（憲法会議）

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp
ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp

TEL03-3261-9007
FAX03-3261-5453

2025年11月6日(木)

NO. 1628号

本号3頁

憲法生かし平和築こう 公布79年 憲法集会開催

日本国憲法が公布されて79年の3日、全国各地で憲法を守り生かそうと求める宣伝や講演会が行われました。国会正門前では、総がかり行動実行委員会と9条改憲NO！全国市民アクション主催の憲法アクションが取り組まれ、強風のもと2300人が参加。「守れ！生かせ！憲法」「させるな大軍拡」とのボードを持ち「改憲反対」「高市政権みんなで倒そう」とコールしました。

開会あいさつで、戦争をさせない1000人委員会の染裕之さんは、高市政権が“異次元の軍拡”に突き進むもと、平和と民主主義を誓った戦後の原点を見つめ直すことが戦後80年に問われると指摘。「平和憲法の理念のもとに、世界の恒久平和実現へ不断の努力を続けよう」と述べました。

駆け付けつけた野党の国会議員があいさつ。社民党のラサール石井副党首、日本共産党の田村智子委員長、立憲民主党の阿部知子衆院議員があいさつ。「沖縄の風」の伊波洋一参院議員のメッセージが紹介されました。

田村氏は、高市自民・維新連立政権の危険性を指摘しつつ、「その足元はもろくて弱い」と述べ、基地強化などが進む自治体での懇談を紹介。「今の軍拡、9条改憲の動きは『戦争だけはだめだ。平和で安心して暮らせる街であってほしい』という願いすら破壊するものだ。国民とは相いれない。危険な高市政権を短命に終わらせ、憲法輝く新しい政治をともにつくろう」と呼びかけました。



次に、市民がスピーチ。国際ジャーナリストの伊藤千尋さんは「世界は混乱に陥っているが私たちは分かっている。憲法9条の79年の歴史を世界に広げよう」、平和を求め軍拡を許さない女たちの会共同代表の前田佳子さん（日本女医会会長）は「平和は諦めない人の手によってつくられる」と発言し、ライターのと田静香さんのメッセージを代読しました。その他、ピースボートの古川敦子氏、ジェノサイドに抗する防衛大学卒業生の会の平山貴盛氏、改憲問題法律家6団体の大江京子氏が発言しました。

集会の最後に、憲法共同センターの石川敏明氏が行動提起を行いました。

福岡「平和をあきらめない北九州ネット」が小倉北区勝山公園で集会

憲法公布から79年となる3日、北九州市では「平和をあきらめない北九州ネット」が小倉北区勝山公園で集会を開き、200人が参加しました。日本共産党の田村貴昭衆院議員と市議団のメンバーが参加し、田村氏が代表して連帯あいさつをしました。

田村氏は、高市政権が発足直後からアメリカ言いなりに大軍拡を進めていると批判し、「正面からたたかう」と力説。「戦後80年間、戦争してこなかった最大の礎は憲法9条だ。改憲勢力を断固として許さず、たたかっていこう」と力を込めました。

代表の前田憲徳弁護士は、高市政権下で大軍拡、改憲の動きが加速する可能性を指摘。「徹底した議論で憲法9条に基づく平和外交をつくっていこう」と呼びかけました。

集会では、社民党があいさつしたほか、「戦争を止めよう！沖縄・西日本ネットワーク」のメンバーらがスピーチ。集会後にデモ行進をし、「改憲させない」などのコールをしました。

大阪 2500人参加で「輝け憲法！平和といのちと人権を おおさか総がかり集会」

「輝け憲法！平和といのちと人権を おおさか総がかり集会」（実行委員会主催）が3日、大阪市北区の中之島公園で開かれ、2500人が「いかそう憲法」「とめよう大軍拡」のポテッカーを突き上げアピールしました。

とめよう改憲！おおさかネットワーク共同代表の山本健治さんが開会あいさつ。高山佳奈子京都大学教授が、大軍拡より高い価値のある憲法9条をいかして「戦後80年、事実に向き合い不戦の誓いを」と訴える特別スピーチがありました。

日本共産党の辰巳孝太郎衆院議員と清水忠史元衆院議員、社民党副党首の大椿裕子前参院議員ら各野党の代表が登壇し、連帯あいさつ。辰巳氏は「今こそ野党が結集し憲法違反の安保法制廃止と大阪のカジノ阻止へ力を合わせよう」、大椿氏は「戦争の流れへ加担させる政治はイヤだとダダをこねよう」と訴えました。

各分野の市民がスピーチし、大阪憲法会議幹事長の丹羽徹龍谷大学教授が閉会あいさつ。集会後にパレードを行いました。

京都 「生かそう憲法、守ろう9条憲法集会」

京都市の円山公園音楽堂で3日、憲法9条京都の会などによる「生かそう憲法、守ろう9条憲法集会」が開かれました。

高橋純子朝日新聞編集委員が「戦後・被爆80年戦争しないさせない一憲法生かして平和をつくる」と題し講演。自民党の改憲論議を取材した経験から「落ち目の政治家の最後のとりで」と批判。自民党の改憲草案が人権への制約を意図していることや、表現の自由への「公益・公の秩序」による規制導入、「企業体国家」への回帰を狙っていると警鐘を鳴らしました。

日本共産党の堀川あきこ衆院議員があいさつし、高市政権について「女性初の総理大臣と期待が高いようですが、私は危機感しか感じていません」と指摘。消費税減税や裏金問題究明に背を向ける一方、維新と一緒に改憲に前のめりになっており「あまりに危険な政権」と批判し「自民党政治を延命させ、さらに危険な方向へ引っ張っていく政治に未来はない」と訴えました。

「3の日行動」10年 毎月国会前でも行動

憲法集会が開催される前に、国会前の「3の日行動」が行われ、参加者は引き続き憲法集会に参加しました。

「憲法9条を守ろう」「戦争反対」など思い思いのプラカードを一斉に掲げる定例の「3の日行動」が3日、10年を迎えました。国会正門前では、行動開始当時から安倍政権時代に掲げられた「アベ政治を許さない」のプラカードも多く見られました。250人が参加しました。

作家の渡辺一枝さんは行動の呼びかけ人でもある作家の澤地久枝さんの「3の日行動」にかける熱意を紹介。毎月続けてきた行動が、コロナでいったん中止になった時でも、「もしかして来る人がいるかもしれないと澤地さんは待っていた」と話しました。高市早苗政権は「アベ政治を引き継ぐだけでなく、なおもひどい状況にしようとしている。負けずにあらがっていきましょう」と引き続き行動を呼びかけました。

参加者からは高市政権の政治姿勢を批判しつつ、声を上げることの意義を強調する意見が相次ぎました。東京都足立区の鎌田由利子さんは、高市政権が衆院議員の比例定数削減を狙っていることに対し、物を言う政党を排除すると批判。自維連立政権は「現代版治安維持法、『スパイ防止法』を通そうとしている。政権を批判する政党がさらに排除されうる」と警告。「まずは定数削減をさせないようにしよう」と訴えました。

維新・藤田共同代表、「構図自体が誤解や疑念を招く」と、公設秘書企業への発注取りやめ 疑惑報道受け

「しんぶん赤旗日曜版」が、日本維新の会の藤田文武共同代表側に公金が還流した疑惑があると報じたことをめぐり、藤田氏は2日、自身のYouTubeチャンネルで、公設秘書が代表を務める会社へのビラ印刷などの発注を取りやめると明らかにしました。

そして、4日、国会内で会見を開き、自身の公金環流疑惑について説明しました。

共産党機関紙「しんぶん赤旗」日曜版によると、藤田氏側が2017年6月～24年11月に自身の公設第1秘書の会社に約2000万円を支出・その会社が同秘書に年720万円の報酬を支払っていたと

いう。同紙は2000万円のうち9割以上の約1965万円が公金から支払われていたとし、「身内への税金還流」と指摘していました。

藤田氏は赤旗の記事について「悪質な印象操作」と断じ「短期間の要求された期日で返答したが、回答内容はほとんど好意的に反映されなかった。記事は恣意的に作られたもの」と非難。「週刊文春並びにそれに類推する週刊誌以外に、そういう取材手法を受けたことはない」と述べました。藤田氏は、配信した動画で、弁護士に確認したうえで、この会社への発注が適法だったとの認識を改めて強調。「専門性があり、スピーディーにやっていただけたことからお願いしてきた」と説明していました。そして、「構図自体が誤解や疑念を招く」と公設秘書企業への発注取りやめたと語っていました。

でも、「この会社への発注が適法」だったというなら、何も発注をやめる必要はないわけで、やはりやましいことだから、やめたのでしょうか。

会見では、さらに「赤旗は公平性を重視するような報道機関ではありません。共産党のプロパガンダ紙であるとは認識している」と断言。「非課税である事業をされている政治活動です。つまり公平な報道でなく、共産党の政治的主張」と強調し「共産党さんに何回も質問されて答える義務はない」と切り捨てました。また「しんぶん赤旗は共産党の部門だから、そういう人がピンポン、ピンポン来る。身体に危害を及ぼすと危機感を覚えるのは普通」とまで話し、「今後は共産党及び赤旗の質問状には一切返答しない」と対立感情をあらわにしました。

また藤田氏は、この件を報じた赤旗の記者の名刺を自身のXでさらしたことについて「個人名で質問状が来ている。返答にも『適切に反映されない場合には公開させていただきます』と書いて、それに『公開しないでくれ』という問い合わせもいただいていないので公開した」と説明。赤旗側からは、名刺画像公開の削除と謝罪を求める申し入れをされていたが「携帯電話もメールアドレスも消している。それ以外の番号は公開情報です」と正統性を主張しました。

藤田氏の会見後、共産党の小池晃書記局長も会見。名刺画像掲載について「きょう藤田さんは『情報消しているから問題ない』と言っていたが、掲載されていた会社の電話番号は公開していないもの」と反論。赤旗についても「スクープをきちんと出している報道機関だ」と主張しました。

報道以降の一連の流れについて、維新の「創業者」でもある橋下徹氏は、「禁止ルールがなくてもやったらあかん！」と断言しています。「藤田さんは4日に記者会見を開くと言ってます。おそらくこれは違法ではない、と言うと思います。現行法では違法ではないんですが、ルールがないから何でもやってもいいってわけじゃなくて、ルールがなくても控えなきゃいけないのが政治家なわけです」と語り、藤田氏の姿勢の変化についても指摘していました。

吉村氏も同様の手口か・・・？ とんでもない維新の金権体質

日本維新の会の藤田文武共同代表側が、公設第1秘書が代表を務める会社にビラデザインなどの名目で計約2000万円分を支出していた会社問題で、同会社に維新の大阪府総支部も2024年に同社に「ビラ作成費」として約100万円を支払っていたことがわかったと、今朝、一斉に報じられています。（詳細は次号）

あれ??「臨時国会で定数削減できなければ連立解消」と言ってたのに!!

TV番組で、吉村代表が高市自民との連立の絶対条件に掲げた「今臨時国会での衆院議員1割削減」に関して、合意文書では「一割を目標に衆議院議員定数を削減するため、令和7年臨時国会において議員立法案を提出し、成立を目指す」と記されていることを指摘されました。「成立を目指す、となっていて、すごく弱くしか感じない。いつぐらいに議員定数削減で高市さんと握ったんですか？」と聞かれ、吉村代表は「この臨時国会です。臨時国会でやります」と返しました。

「自民と維新を足しても（過半数に）足りないのは事実。成立するためには他の無所属の議員か、他の政党が賛成しないと成立しません」と語りました。

そして、司会者が「もし臨時国会中に難しかったら、連立解消もあり得るんですか？」と聞くと、吉村代表は「いまここで連立解消とか言うつもりは全然ないんですけど、議員定数の1割削減、少なくとも高市さんは腹くくってやると、おっしゃいました。僕はそれを信じてます」と述べました。「これをやったら日本のいろんな大改革の道はぐっと開けてくると思ってますので、臨時国会、正念場になると思ってます」と語りました。